

広島高速道路公社グランドデザイン(初版)

Hiroshima Expressway Public Corporation GRAND DESIGN
- March 2022 First Edition -

2022(令和4)年3月
広島高速道路公社

[写真：広島高速4号線広島西大橋「逆さ空橋」]



目次

● はじめに	・・・・・・・・・・	3
● 広島高速道路公社グランドデザイン概要	・・・・・・・・・・	4
・ グランドデザインの位置付け	・・・・・・・・・・	5
・ 広島高速道路公社のミッションとバリュー	・・・・・・・・・・	6
・ グランドデザイン策定の目的	・・・・・・・・・・	7
● 予測される社会環境の変化	・・・・・・・・・・	8
● 広島高速道路公社グランドデザイン		
・ 「広島高速道路公社HEX」	・・・・・・・・・・	10
・ HEX実現プロセス「新たなあたりまえ」	・・・・・・・・・・	20
● あとがき	・・・・・・・・・・	35

はじめに

広島高速道路公社 理事長 熊谷 銳



広島高速道路公社は、広島都市圏の道路ネットワークの根幹をなし、県民・市民の生活と社会経済活動を支える重要な役割を担う広島高速道路の整備主体として、平成9年6月3日に設立されました。

現在、基本計画路線に定める5路線、総延長29kmのネットワークのうち、広島高速1号線から4号線までの4路線、延長25kmを供用しています。

残る広島高速5号線も、広島都市圏の玄関口ともいえるJR広島駅とのアクセスを強化する重要な路線であり、職員一丸となって、早期の供用を目指し、鋭意整備を推進しています。

こうした中、近年の社会を取り巻く環境は、人口構造の変化、老朽化インフラの増加、技術革新の進展、激甚化・頻発化する自然災害等、急激に変化しており、社会全体に迅速かつ柔軟な対応が求められています。

そのため、我が社も、社会環境の変化に適切に対応し、設立目的等の使命を忘れず着実に事業を継続するべく、目指すべき将来像を描く「広島高速道路公社グランドデザイン」を策定することとしました。

策定に向けた取り組みにおいては、職員一人ひとりが改革していく意識を持ち、主体的に組織の将来像を描く過程と実現していく意思も重要になることから、社内各課の有志でワーキンググループを組織し、「目指すべき将来像」や「取り組み方針」等について意見を交わし、議論を重ねました。

そして、30年程度先までの長期的な視点での社会環境の変化や、自社事業への影響等のリスクを想定するとともに、我が社が確実に事業を継続し、更に成長していくために、職員がこうあって欲しいと願う目指すべき将来像を描き、その実現に向けた取り組みの方向性について取りまとめました。

我が社は、今年で設立から25年目を迎えます。

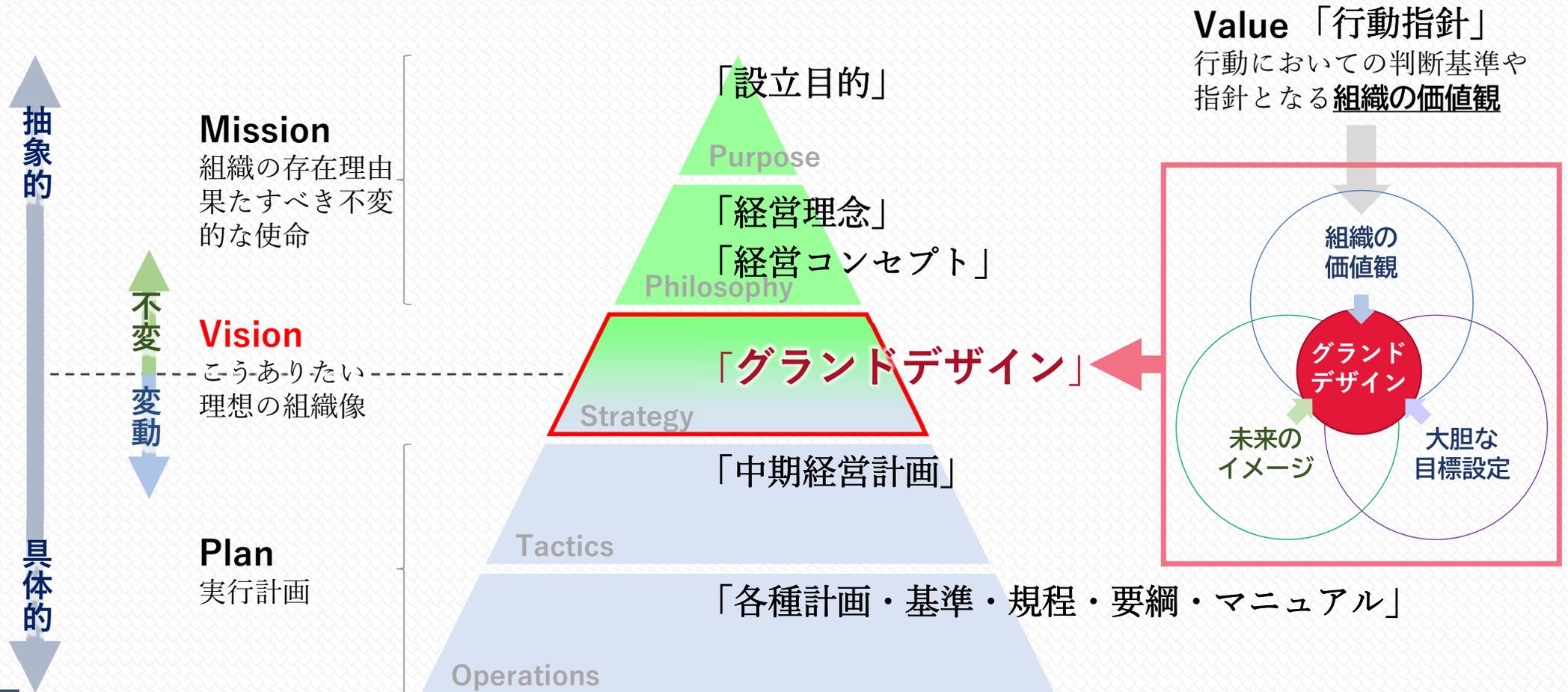
これまでに積み重ねてきたお客様の安全・安心は、更に高めて未来に引継ぎ、不確実な将来においても確実に使命を果たし続けていかななくてはなりません。

今後、本グランドデザインで描いた目指すべき将来像を「広島高速道路公社HEX」と位置付け、その実現に向け、いかなる変化にも柔軟かつ適切に対応できる主体性のある組織作りや、職員の育成に取り組み、職員が職務に誇りを持ち一丸となって広島高速道路公社の自立と自律を図ってまいります。

そして、お客様や様々な業界の事業者様と地域社会への貢献の新たなあり方を協奏していくことで、「揺るぎない信頼」を獲得し「ブランド」を創り上げてまいります。

広島高速道路公社グランドデザイン概要

グランドデザインの位置付け



広島高速道路公社のミッションとバリュー

Mission

組織の存在理由
果たすべき不変
的な使命

設立目的

広島都市圏の交通の円滑化、住民の福祉の増進、産業経済の発展への寄与

経営理念

広域的な経済活動と安全・安心な暮らしを支える道路サービスを持続的かつ効率的に提供し、活力と賑わいのある広島都市圏の発展に貢献します。

経営コンセプト

- 1 質の高い高速道路ネットワークの提供
- 2 お客様に満足していただける道路サービスの提供
- 3 強固な経営基盤の構築

Value

行動における
判断基準や指針
となる価値観

行動指針

私たちは、「経営ビジョン」に掲げた経営理念を具体的な施策展開につなげ、地域社会の信頼に応えるため、日々の業務の中で自主性や主体性を持って次の指針に基づき行動します。

- 私たちは、お客様の視点に立ち、誠実に職務を遂行します。
- 私たちは、公社の社会的責任を自覚し、高い倫理観をもって行動します。
- 私たちは、様々な関係者との対話を大切にし、良好な関係を築きます。
- 私たちは、現状に満足することなく、変化に適切かつ柔軟に対応します。
- 私たちは、効果・費用・スピードを意識し、業務の最適化を図ります。
- 私たちは、誇りとやりがいをもてる組織づくりに取り組みます。

「行動指針」

グランドデザイン策定の目的

BRANDING

お客様からの揺るぎない信頼の獲得

弛まない理想追求と努力

夢見る未来を目指す挑戦

(P10参照)

社会的要請の拡大

広島県や広島市が描くビジョンへの
貢献(追従)から「**ビジョンの牽引**」へ

オポチュニティ

都市機能の全体最適化・最大化へ

(挑戦の土台)

新たな組織のカタチ

(P20参照)

スパイラル
アップ

組織の発展

自立と自律 (理想の追求、事業の全体最適化)

- 30年程度先の未来を見据え、変化の時代にも確実に事業継続する組織の将来像描き、着実に実現していきます。

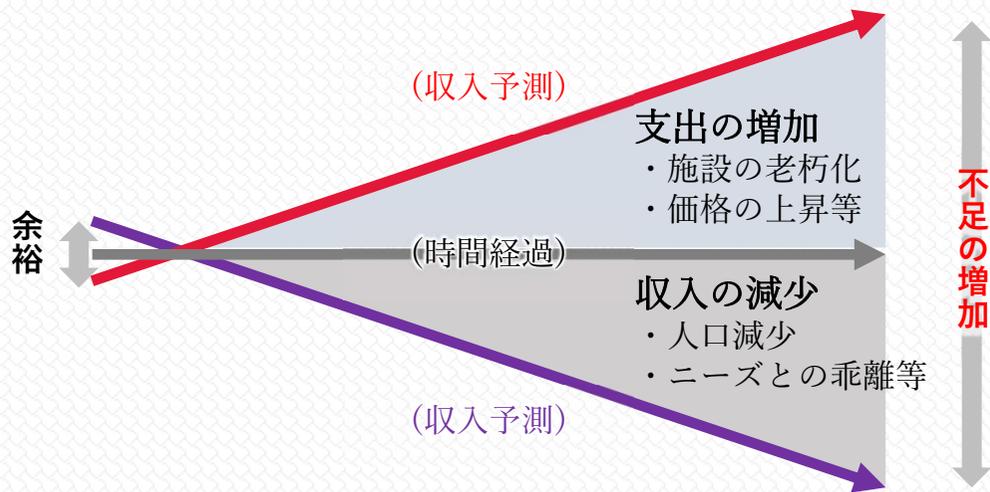
連携 (線から面への広がり)

- 新たなサービスを協奏していきます。
官・学に加え、業種も超えた様々な事業者様との連携を積極的に推進します。
知見を増やし視野を広げながら、使命、構想、情熱、情報、取組を共有します。

予測される社会環境の変化

予測される社会環境等の変化

「現状維持」がもたらす未来



～決して不測の事態ではない資金不足～

○人口減少

- 総人口の減少よりも更に早い生産年齢人口の減少、労働力の不足
- 請負者の受注者の減少、価格・労務費の高騰、業務の停滞
- 職員数・応募人数の減少、労務負担の増大、業務継続への影響

○技術の進展・産業の変化

- CASE等による産業構造の変化、顧客、求められるサービスの変化
- MaaS等による価値観の変化、顧客、求められるサービス等の変化
- 上記による仕事のあり方、求められる働き方やスキル等の変化

○自然災害の頻発化・激甚化

- 災害復旧の事業増大、フェールセーフのための事業費増大
- 請負者・受注者の不足による復旧の遅延、他の整備事業への影響
- ニューノーマル化による高水準のリスク管理と体制構築の要請

○社会的要請の変化

- 社会インフラの老朽化進展、延命化や第3者被害防止要請の高まり
- 環境問題への対応要請（温室効果ガス排出抑制、再生可能エネルギー活用等）
- 企業価値の変化（社会問題への積極的対応等、共感・共鳴できる企業姿勢）

○その他

- 周辺開発の進展による、人流の変化、拠点の変化
- ICTの進展、生活スタイルの変化、人流物流の変化、犯罪の変化
- 感染症対策を契機としたキャッシュレス化進展、料金徴収の変化

広島高速道路公社グランドデザイン

「広島高速道路公社 H E X」

揺るぎない信頼の獲得

夢見る未来を目指す挑戦

与えられた責務を全うすることに満足するのではなく、貢献(追従)から牽引へ。
「ブランド」という揺るぎない信頼の獲得に向けた挑戦を続けていきます。

広島高速道路公社グランドデザイン

BRANDING

～ 高速道路で未来をつなぐ～
Expressway connects the Future

広島高速道路公社 **HEX**

[目標 30年]

Hospitality

最高のおもてなし
～ 創り出し勝ち取る需要～

Engineering

最高の工学技術
～ 知の集積からの価値開発～

X [Transformation]

柔軟な組織変革
～あらゆる変化へのしなやかさ～

H 最高のおもてなし

～ 創り出し勝ち取る需要 ～

～ 高速道路で未来をつなぐ～
Expressway connects the Future

広島高速道路公社 **HEX**

Hospitality

絶対的な安全の提供

平時には「交通事故0」
災害等有事には「最も安全な避難先としての広島高速道路」を、
当然のサービスとして提供

- 日本一の交通安全を実現
- 高度な避難機能を有する道路整備

サービスの革新

料金対価として提供するだけのサービスから、お客様の心に残り、意識的な選択と利用を促すアクティブな「サービス」への進化

- お客様の「喜びと嬉しい」を創造
- ホスピタリティ2.0

新たな価値観の創造

高速道路を、未来の街の発展や賑わいを生み出す都市内の貴重な空間として活用し、新たな価値観を創造

- 新たな高速道路の活用提案
- 経営の多角化推進

H 最高のおもてなし ~ 創り出し勝ち取る需要 ~

絶対的な安全の提供

- ・最先端の通信技術を早期導入し、高度な運転補助をいち早くサービス展開
- ・お客様と一緒に創り上げる安全プローブデータを積極的に収集し、お客様目線でのリアルタイム情報を、交通管理、構造物等の管理に活用

- ・利便性に加え安全性でも地域に貢献絶対安全な避難場所としての高速道路を実現
- ・最新技術も積極的に導入し、防災計画・体制を極限まで高め、高速道路や関連施設「からの避難」を「への避難」にする機能拡充及び運用を実現

- ・新たな街の賑わいや文化を生み出す拠点作り、意欲ある起業家の支援
- ・高架下等を活用して、ビル等の商用スペースを確保、点検時足場や常時観測用計器設置場所等としても活用
- ・自動車整備(故障対応)の事業化、広島都市圏全域の緊急対応力を強化



- ・人流や物流全体を俯瞰して「お客様にとっての最善とは何か」を追求サブスクリプションへの参入等、有料道路道路事業における既存の料金施策の枠組を超えるサービスを検討、提案
- ・高度化と高効率化(お客様の負担軽減)を徹底、還元等による更なる喜びも創造

新たな価値観の創造

- ・再生可能エネルギー発電の事業化渡河部(水力、振動)、TN(風力)、高架遮音壁及び土工法面(太陽光)等を活用
- ・物資輸送事業化、都市のスマート化橋梁(床版下、桁内)、TN(検査路下)、土工部(路肩下)を輸送空間、高架下事業用地を集積空間に活用

サービスの革新

- ・最先端通信技術を積極的に導入・活用、個々のお客様の状況を把握・忖度お客様の寄り添い、先回りした情報提供、サポート、サービスを提供
- ・高架下等の道路事業用地を活用した、お客様への通行以外の付加サービス(休憩・宿泊・充電・整備等)を展開

E 最高の工学技術

～ 知の集積からの価値開発 ～

～ 高速道路で未来をつなぐ～
Expressway connects the Future

広島高速道路公社 **HEX**

Engineering

知の集積と技術の深化

様々な知やノウハウを積極的に集積、言語化し蓄積・継承・が可能な形式知として再構成
確かな技術への進化・発展を図る

- 知の集積 形式知としての技術の蓄積
- 共同研究の積極的な推進

技術展開と業務拡大

蓄積した技術力の商品化
技術力の水平展開による周辺道路の整備・管理の効率化等、地域貢献と収益力向上の両立を図る

- 技術力の事業化と水平展開
- 整備区間及び管理区域の拡大

価値創造の技術開発

新技術を積極的に活用し、業務品質向上と業務体制合理化を両立
合理化により得た人的リソースで新たな技術開発・価値創出推進

- しっかり寄り添う整備と管理
- 価値ある先進技術の開発推進

E 最高の工学技術

～ 知の集積からの価値開発 ～

- ・最新の技術情報や、事業中の対応記録に加え、アナログ世代の暗黙知を集積、蓄積・共有・活用・継承のための言語化した形式知に変換
- ・形式知に変換し蓄積した技術情報をAIディープラーニング等に活用、職員教育・サポートの更なる充実を図る

- ・高速道路整備及び管理の・社会実装に伴い生じる技術的課題以外の課題（ELSI、倫理的・法的・社会的な課題）への対応手法の研究推進
- ・課題解決や業務効率化・高度化のトップランナーを目指し、技術開発、価値創出(特許取得含む)を推進

知の集積と技術の深化

- ・産、官、学との連携推進
- ・高速道路を試験空間を活用し、オープンイノベーション、新たな施策検討の試行(ルール作りへの参画)、学術研究成果の検証を積極的に展開
- ・後追いではない最新の知見とノウハウ集積を加速



- ・技術力の商品化(コンサルティング業務の事業化)により、周辺道路の整備・管理技術向上といった地域貢献と、収益力強化との両立を図る
- ・蓄積した技術力を背景に、関連高速道路事業者との会議において議論をリード、新技術の標準化を牽引

価値創造の技術開発

- ・計画、調整、調査、設計、施工から、維持更新(引渡し)まで、道路構造物や道路設備のライフサイクル全体での業務最適化と効率化、合理化を徹底
- ・体制合理化の推進により得られた人的リソースを、新たな技術開発・価値創出を推進、スパイラルアップを図る

技術展開と業務拡大

- ・蓄積した技術とノウハウを背景に、他の道路事業者にも、効率的な道路整備、高品質低価格な道路管理を提案、事業拡大を図る
- ・整備・管理事例の増加による知見拡大との技術力向上をオポチュニティとして、更なる事業拡大を図る

X 柔軟な組織変革

～あらゆる変化へのしなやかさ～

～ 高速道路で未来をつなぐ～
Expressway connects the Future

広島高速道路公社 **HEX**



X 柔軟な組織変革 ～あらゆる変化へのしなやかさ～

- ・短期的なハピネスを超越し、お客様と職員、公社事業に係る全員のWell-Being(持続的な幸せ)を追求
- ・幸せを提供し、しっかりと感じて貰える仕事を目指して、先ずは職員自身が幸せを実感して働ける、新たな3K(活力、輝き、好感度)を実現

幸せと魅力の発信

- ・「示すから広める」へ、アクティブな情報発信(媒体増加、プッシュ情報、講演、企業・著名人コラボ、演出等)の展開
- ・仮想空間と現実空間で、地域の利便性や活力を生み出す公社の仕事の魅力とやりがいの体験機会を提供、未来のお客様や職員を育む地域貢献を展開

- ・組織の知見拡大や、職員がこうなりたいと思いたい目指すモデルケースとなり得る、高スキル保有者やインフルエンサー等、有益な人材の弾力的な登用
- ・シェアワークの拡大、副業の推奨による職員の流動性と知見拡大



- ・現行計画に満足せず、より高い目標「償還計画期間-10年」を掲げ、Mission Possibleとするための、高効率な組織運営体制の追求、組織の進化を模索し続ける図る
- ・現行事業スキームを超えた、償還期間完了後も見据えたオポチュニティ

多様化と思考の進化

- ・組織の常識や慣例に囚われない意思決定のための、経営陣の多様化推進
- ・ダイバーシティとアジリティを両立させる意見集約、施策立案、意思決定、業務実施の手法構築
- ・権限移譲とプロジェクト化、アジャイル文化の形成

事業提案と活力創出

- ・運営高効率化を背景に、償還完了後の最も税負担が少ない都市高速道路維持管理のスキームとして、本来道路管理者に民営化による事業継続を提案
- ・民営化の後、更なる収益拡大と税負担削減のための事業拡大(グループ会社設立等)を検討

広島高速道路公社グランドデザイン

HEX実現プロセス「新たなあたりまえ」

時代の変化をチャンスに
新たな組織のカタチ

いかなる社会環境の変化があったとしても適切に対応し、着実に事業を継続して地域社会の信頼に応え続けていくための「目指すべき10の将来像」

HEX実現プロセス「新たなあたりまえ」

～ 高速道路で未来をつなぐ～
Expressway connects the Future

広島高速道路公社 **HEX**

お客様の幸せと喜びの追求

「あたりまえ」

安全の訴求と弛まない努力

更なる発展への挑戦

からの更なる挑戦

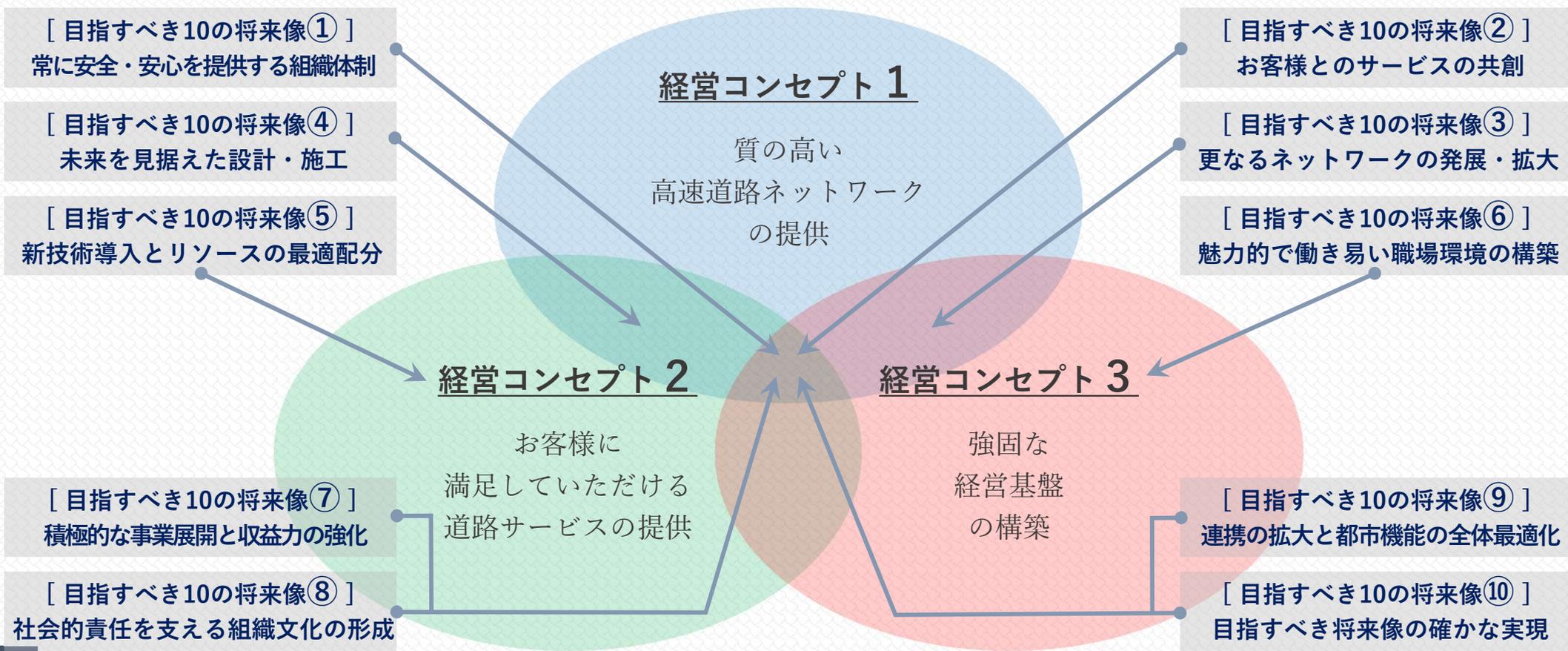
将来像の融合イノベーションの萌芽

「新たなあたりまえ」 ～目指すべき10の将来像～

- ① 常に安全・安心を提供する組織体制
- ② お客様とのサービスの共創
- ③ 更なるネットワークの発展・拡大
- ④ 未来を見据えた設計・施工
- ⑤ 新技術導入とリソースの最適配分
- ⑥ 魅力的で働きやすい職場環境の構築
- ⑦ 積極的な事業展開と収益力の強化
- ⑧ 社会的責任を支える組織文化の形成
- ⑨ 連携の拡大と都市機能の全体最適化
- ⑩ 目指すべき将来像の確かな実現

目指すべき10の将来像と経営コンセプトの相関

経営理念 広域的な経済活動と安全・安心な暮らしを支える道路サービスを持続的かつ効率的に提供し、活力と賑わいのある広島都市圏の発展に貢献します。



経営理念の実現

揺るぎない信頼の獲得

新たな価値の提案

強固な組織体制

現在

自社の事業を

全体最適化

いかなる外部環境の変化にも対応できる組織のS X(持続可能性を重視した変革)を着実に推進。
組織の自立と自律を促す組織文化の醸成。

広島都市圏の都市機能を

全体最適化

(追従からの脱却)
広島県・広島市の

ビジョン牽引

サービスの革新
多様化と思考の進化
新たな価値観の創造
知の集積と技術の深化

ブランド構築

事業発展と活力創出
絶対的な安全の提供
価値創造の技術開発
技術展開と業務拡大
幸せと魅力の発信

広島高速道路公社
グランドデザイン

～ 高速道路で未来をつなぐ～
Expressway connects the Future

広島高速道路公社 **HEX**

「あたりまえ」からの挑戦

飛躍のための体制作り

～ 目指すべき10の将来像～
Future Image in Times of Change

新たなあたりまえ

「広島高速道路公社 H E X」

「あたりまえ」からの挑戦

「新たなあたりまえ」

[実現目標 15年以内]

- 1) 30年程度先までの長期的な将来予測を見据え、いかなる社会環境等の変化にも適切に対応して着実に事業を継続していくための「目指すべき10の将来像」を描きました。
- 2) 目指すべき10の将来像を「新たなあたりまえ」と位置付け、弛まない努力で未来志向で主体的・能動的な組織のS Xを推進し、事業の全体最適化を図っていきます。

※ 社会環境や社会的要請の変化もつぶさに観察し、必要に応じて取組の追加や改善等を行います。

常に安全・安心を提供する組織体制

《SDG's : 持続可能な17の開発目標 該当項目》



- ・ 技術が進歩し、社会が変化しても、「お客様の安全は全てに優先する」という変わることのない信念のもと、国内で最も安全な道路を目指し、弛まない努力で交通安全対策に取り組みます。
- ・ 自然災害の激甚化や頻発化、感染症のまん延等、これら全てをニューノーマルと捉え、「想定外」を一切許さない備えの充実、有事にも凡事徹底と臨機の対応を両立できるの、職員の意識改革、練度向上を図ります。
- ・ いかなる状態においても、お客様には安心していただける万全の防災体制を構築します。



(参考事例：交通事故対策 高速2号線 下り線 府中付近)



(参考事例：大規模災害想定訓練)



(参考事例：重大交通事故対応訓練)

お客様とのサービスの共創

《SDG's : 持続可能な17の開発目標 該当項目》



- ・ 徹底した調査とデータ収集・分析による「お客様」と「利用状況」の見える化を進めます。
- ・ 無機質なデータからは見えない、お客様の想いや熱量を、貴重なご意見として直接聴かせていただく機会や仕組みを積極的に設けていきます。
- ・ お客様との対話をとおして、本当に求められている新たなサービスを共創し、展開することで、満足度向上に留まらない、愛着を持って叱咤、応援していただけるような、お客様とのより良い関係を築いていきます。



(参考事例：温品PA活用 販売物の充実)



(参考事例：道路モニター募集)



(参考事例：お客様満足度調査)

「新たなあたりまえ」 目指すべき10の将来像 ③ /10

更なるネットワークの発展・拡大

《SDG's : 持続可能な17の開発目標 該当項目》



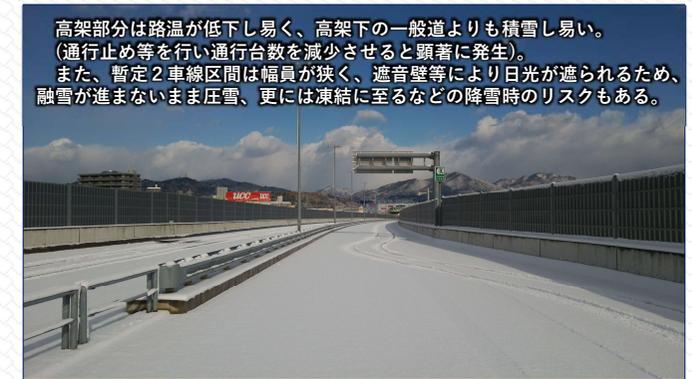
- ・ 道路ネットワークを拡大し、広島都市圏の全ての地域、主要施設へのアクセスを強化、利便性を更に高め確実に提供し続けることで都市機能を強化します。
- ・ 賑わいを創出し人流と物流を促すことで、都市の発展に寄与していきます。
- ・ 環状道路網の整備や暫定2車線区間の4車線化により、利便性の更なる向上だけでなく、点検・維持修繕作業時の通行制限等によるサービス低下の抑制や、交通事故、大規模災害等への高い冗長性を高め、広島都市圏の防災機能も強化、県民・市民の安全・安心にも貢献していきます。



(参考図：広島高速道路図)



(参考事例：片方向出入口 高速2号線 東雲)



(参考事例：2014-12-17 高速2号線 大州付近)

未来を見据えた設計・施工

《SDG's : 持続可能な17の開発目標 該当項目》



- ・ データ共有と状況の見える化を行い、あらゆる情報を各部署にフィードバックし、将来を想定した道路整備を推進するとともに、新たなニーズや要請にも速やかに対応できる効率的な維持管理の両立を図っていきます。
- ・ 災害発生時に万が一道路施設が損傷した場合も、過去の設計思想等を踏まえた速やかな復旧を実現します。
- ・ 確実な記録と技術情報の蓄積・共有を行い、組織の技術力を高め、更なる発展のための確かな技術継承を実現します。



(参考事例：4車線化予定区間 国道2号交差部)



(参考事例：騒音苦情の原因 異質な橋梁継目)



(参考事例：目的の喪失 検査に使用出来ない検査路)

新技術導入とリソースの最適配分

《SDG's : 持続可能な17の開発目標 該当項目》



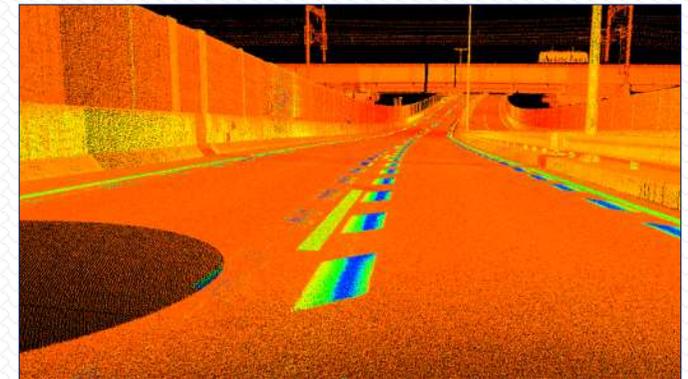
- ・ お客様のニーズや社会的要請を踏まえた新たなサービス展開を検討、既存サービスの利用実態も把握して、公社事業全体で必要なリソースの確実な確保、最適な配分を実現します。
- ・ 新技術の積極的な導入に加え、外部視点も加えて検討を重ね、業務品質の向上と効率化、低コスト化を実現します。
- ・ 常にお客様にとって最善のサービス展開と、お客様の負担軽減を両立する、効果的な組織運営を追求していきます。



(参考事例：交通管制設備)



(参考事例：道路構造物点検効率化 トンネル画像撮影)



(参考事例：レーザー計測点群画像図)

魅力的で働きやすい職場環境の構築

《SDG's : 持続可能な17の開発目標 該当項目》



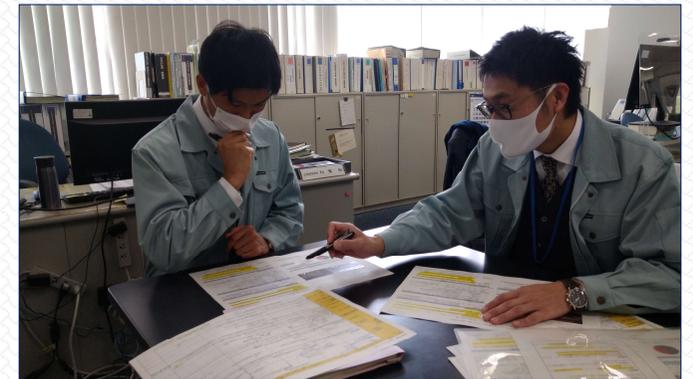
- ・ 事業継承に備えた雇用継続と合わせ、労務負担の軽減と品質向上・付加価値創造のための業務効率化を推進します。
- ・ 職務とスキルのミスマッチを防ぎ、生産性の高い新たな働き方にも繋がる学びの機会を積極的に確保します。
- ・ スキルを活かし挑戦する考え方や、仕事と私事を両立する生活スタイル等、価値観に応じて職員が自由に選べる働き方(場所・時間・方法・褒賞等)の選択肢と、組織内連携や相互サポートによる安心感のある職場環境を実現します。
- ・ 職員自身が幸せを感じ、社外からも魅力的に見える、不確かな未来のパイオニアと成り得る職場環境を構築します。



(参考事例：リモート勤務の状況)



(参考事例：ありたい職場環境に係る意見交換会)



(参考事例：社内教育・業務サポート))

積極的な事業展開と収益力の強化

《SDG's : 持続可能な17の開発目標 該当項目》



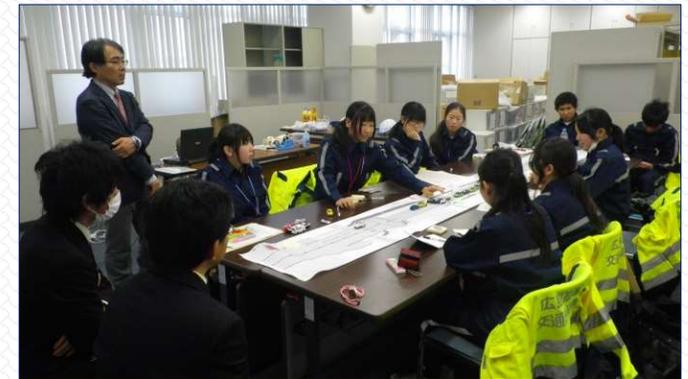
- ・ データによる自社経営状況や課題等の見える化と共有を推進、全職員がリアルタイムに状況を共通認識します。
- ・ データ活用により、リアルタイムの状況把握、意思決定の明確化と施策展開の迅速化を図り、トレンドを逃さないタイムベースの施策展開を実現。
- ・ 収益力を強化することで、新たなサービス展開やお客様の負担軽減の原資を生み出します。
- ・ 更なる収益力強化を積極的に推進し、新たな活力やイノベーションを生み出す仕組みとして、個々の職員が共有されたデータとスキルと情熱を基に、自ら考え提案し、同意を得て実践・挑戦する新たな仕事のカタチをつくります。



(参考事例：事業紹介 2014-03-16開通イベント)



(参考事例：高架下の駐車場利用 高速4号線 中広)



(参考事例：職場体験学習の受け入れ)

社会的責任を支える組織文化の形成

《SDG's : 持続可能な17の開発目標 該当項目》



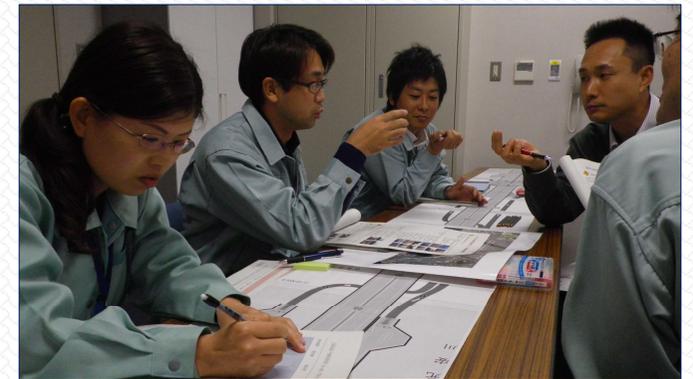
- ・ 全ての職員が自社の使命を認識の違いなく共有して、主体性をもって事業と課題に、真摯さをもって関係者と向き合い、お客様の利便性の早期確保や、将来負担の軽減を意識して事業に向き合い、円滑で効率的な事業推進を実現します。
- ・ 変化の時代にも適切に対応していけるよう、「自ら考える」「最善を求めて試行錯誤する」意識への転換を促すととともに、率先垂範・創意工夫・知行合一・凡事徹底をあたりまえとする組織文化を形成していきます。



(参考事例：R5シールドTN工事契約に係る再発防止取組)



(参考事例：社内勉強会 点検技術講習会)



(参考事例：社内取組 防災訓練計画検討)

連携の拡大と都市機能の全体最適化

《SDG's : 持続可能な17の開発目標 該当項目》



- ・ 道路事業者や関係団体だけでなく、業種の枠を超えた様々な業界の事業者との繋がりを積極的に広げていきます。
- ・ 幅広い繋がりの中から得られる様々な知見や多様性を取り込み、県民・市民のためのより良い広島高速道路事業を目指します。
- ・ 使命(Mission)、情報(Information)、構想(Vision)、情熱(Passion)、取組み(Action)を共有しながら積極的に連携を推進、お客様サービスや利便性を高める新たな価値観、新たなサービスを協奏していきます。
- ・ 様々な事業者との連携拡大と強化を前提として、人流と物流を促し、高速道路の機能を線から面に広げ、広島都市圏の発展や都市機能の全体最適化・最大化を図ります。



(参考事例：情報の共有 連携取組)



(参考事例：知見の拡大 他業界の現場視察)



(参考事例：情報共有 講演会)

「新たなあたりまえ」 目指すべき10の将来像 ⑩ /10

目指すべき将来像の確かな実現

《SDG's : 持続可能な17の開発目標 該当項目》



- ・ 中期経営計画等と連携し、目指すべき将来像を着実に実現していきます。
- ・ 社会情勢等の動向も積極的に情報収集し、不確かな変化等を包括した将来見通しの精度向上を図ります。
- ・ 学びから得られる知見や、コミュニケーションから得られる意見を蓄積し、狭い世界の常識や慣習だけに囚われない、柔軟で幅広い考え方に昇華させるとともに、高速道路事業のみならず広島都市圏の都市機能の更なる最適化を図ります。
- ・ 一連の取り組みを継続する中で、真に継承すべき「社会的責任を支える組織文化」を形成していきます。



(参考事例：早急に改善すべき事項 過去記録等の保管状況)



(参考事例：計画内容の検証 防災訓練によるBCM)



(参考事例：計画内容の検証 新たな対応方法の確認)

あとがき

今後、技術革新の急激な進歩などにより、道路事業を取り巻く社会環境も激変していくと考えられます。

予測不可能ともいわれる社会環境の変化にも適切に対応し、広島高速道路公社の設立目的を損なうことなく着実に事業を継続、発展させるためには、20年、30年先を見据えた大きなビジョンを持つべきという考えから、この取り組みは始まりました。

取り組みには、部門を超えた多くの有志職員の参加が、公社設立直後に入社した職員から今年度入社した職員まで様々な職員の参加が得られたことで、幅広いメンバー構成でワーキンググループをつくりました。

そして、ワーキンググループに参加した職員が、それぞれに社内の意見や関連する情報を集め、それぞれが夢や理想を基に、こう思う将来を想定し、こうありたいという目指す将来像を思い描き、議論しながらグランドデザインとして取りまとめをしました。

グランドデザインの中で描いた、経営理念や「質の高い高速道路ネットワークの提供」をはじめとする各経営コンセプトの実現に向けた取り組みや方向性は、今後の公社事業を支える土台になり得ると考えています。

このような自社の目指すべき将来像を描いたことは、経営理念の実現への第一歩を踏み出したともいえます。

しかし、将来像を描くことよりも「実現していくこと」「陳腐化させないこと」といった、その後の取組がより重要になります。

今後、中期経営計画で進める各施策や日常の課題対応との関連を深め、未来に焦点を置いた広島高速道路事業の全体最適化を推進するだけでなく、事業を新たな環境変化に対応させていくための不断の取り組みを進め、理念を常に共有し、将来像や取組方針を議論し改めながら、組織全体で共感・共鳴・共振できる将来を生み出していく。

更には、幅広く多くの事業者様との連携強化も推進し、描く将来のビジョンが組織の垣根を超えて共有・融合していくことで、広島都市圏の発展や都市機能としての全体最適化にも繋がっていく。

そのような、自分たちの幸せ、自分たちの組織の未来を確かなものにするだけでなく、広島都市圏の未来にも積極的に貢献し、更には牽引して多くの皆様からの信頼いただける未来に向けた一助となるなら、本グランドデザイン策定に関わった職員一同このうえない喜びであります。

令和4年3月

広島高速道路公社グランドデザイン策定ワーキンググループ

16世紀前半 中国・明の時代の思想家 王陽明（おうようめい）が唱えた、儒教の一派 陽明学における主要な思想の一つ。

「知行合一」とは、どんな知識があっても実践が伴わなければ本当の「知」とはいえず、知識に実践が伴ったものが本当の「知」であるという考え方。

これは、王陽明が知識ばかりを先行させ何ら行動を起こさない多くの思想家たちを危惧していたという背景から来ている。

また、「考え」と「行動」は切り離せないものであるから、「考え」を生み出す「心」を鍛錬し行動を変えよと言う教訓でもある。

吉田松陰が、自身の私塾である松下村塾にこの「知行合一」の掛け軸を掲げていたことでも知られている。

知行合一

熊谷鏡





Hiroshima Expressway Public Corporation

GRAND DESIGN

-March 2022 : First Edition-